



## 東区安心・安全で快適なまちづくり大使 山本昌さんインタビュー



山本さんは、最初からエースとして活躍されていたものと思っていましたが、中学、高校では補欠、入団後も5年間ほとんど1軍で投げる機会に恵まれなかったと聞いています。プロ野球という世界は非常に厳しいものでしたか？

私はそもそもドラフトで指名されると思っておらず、大学に進学し、その後は学校の先生にでも、と思っていました。ドラフト当日にいきなり校長室に呼ばれ、その時初めて中日ドラゴンズに指名されたことを知りました。18歳の少年としては正直うれしかったです。中日ドラゴンズと聞いて更に喜び、というのも、父が中日ドラゴンズのファンで、よく父とナイターを見ていたんです。それで、大学進学は決まっていたましたが、ここはプロで勝負してみようと決意しました。しかし、最初はプロのレベルの高さにびっくりで、先輩たちを見て「これは難しいかな」と。

やはり、プロの先輩たちはすごかったですか？

一番最初にブルペンで見たのが、小松辰雄さん、鈴木孝政さん、郭源治さん、牛島和彦さん。この4人のブルペンをキャンプ初日に見たので、びっくりしましたね。正直、場違いなところに来たかなと。ただ「あきらめない」という気持ちが常にありました。いつもなにかダメでも「頑張らなきゃ」と思う気持ち。中学、高校の時も補欠でしたが、それでも頑張ってきたので。それこそ「継続する」ということを大切にやってきました。

入団後は1軍での登板も少なく、5年目に星野監督からアメリカ行きを通告されています。

5年目は最後の年という思いでしたから、非常にショックでした。今でこそ、野茂投手の活躍に始まり、メジャーリーグが近くに感じますが、当時は全く情報がなくて。もちろんメジャーリーグは知っていましたが、内容も分からない中、向こう（アメリカ）にキャンプへ行って、そこに置いてきぼりにされましたから、非常にショックでした。

アメリカでは、人生を変えるような恩人との出会いもあったと聞いております。その時のエピソードをお聞かせください。

最初はアメリカのシステムも分からず、練習も全然違う。そうしたら、アイク生原さんという方が8か月間付いてくれることになりました。当時は、何でプロ野球選手の自分にプロじゃない人が付くのかなと不思議でしたが、このアイクさんという方は本当に野球が大好きで、私がふてくされていようがなにしようが、きちんと教えてくれるんです。するとだんだん恥ずかしくなってきた、「こんな一生懸命やってくれている人がいるのに、なにやっているんだ、俺は」と。そこから気持ちを変えて頑張ろうと思いました。スクリーボールを覚えたのもアイクさんがきっかけで、「何か覚えなさい」と言われ、大リーグの有名なピッチャーのところにたくさん連れていってもらい、いろいろな球種を聞く事ができた。その中からヒントを得ることができたのです。

アメリカでのチームが優勝争いをしていた中、星野監督の要請で日本に戻ることに。その時のお気持ちは？

正直、戻りたくなかったですね。ちょうどチームが前期に優勝し、プレーオフを控えていました。チームの中心選手として投げていましたので、球団には「帰りたくない、今シーズンはこっちで投げます」と言っていました。すると、星野監督から直々に電話がかかってきて、「いいから帰って来なさい」と。逆らえる人ではありませんので「はい、帰ります」と（笑）。

帰国後はチームのエースとなり、大活躍されました。

日本に帰ってきてすぐ、通算5年目でプロ初勝利を上げるわけですが、今まで200勝挙げたピッチャーは皆さん3年目以内に勝っていて、プロ初勝利が5年目というピッチャーはいないんです。私が一番遅いんですよ（笑）。

山本さんのお話をお聞きしていると、人生の転機の時にチャンスをしっかりとつかんでいらっしゃいます。チャンスをつかめる人になるための秘訣や心構えなどありますか？

まあ、それまでたくさん逃したんでしょうけど（笑）。それこそ小さなことをコツコツやってきたから最後の最後にご褒美をもらえたという認識で思っています。チャンスをつかむために一番大事なのは「準備」だと思います。準備して

いない人はチャンスをもらったとしても、おそらく簡単には手にできない。やはり準備している人の方が必ず手にしやすい。そういう面では私は野球に関しては、嘘をついたことがないし、準備を怠ったことがない。「ちゃんとやっている人にはちゃんとした結果が出る」というのが私自身の経験から言えます。

山本さんはプロ野球選手として50歳まで現役を続けられましたが、コンディションを保ち続けていくために、何か特別なことやルーティンのようなものはありましたか？

これをやっておけば大丈夫という練習方法は確立していました。当然、両親からいただいた「強い体」と「野球が好き」というものもあります。あとは、「あきらめたくない」という気持ちとプロ野球選手でいるためには何をすればいいか、ということのを常に考えていました。最後の10年間は何をおいても野球中心で、それこそ休むと体が動かなくなるので、現役最後の方がよく練習しました。でも、野球選手でいられると思えば苦にならなかったですね。ほとんど休まず、正月も毎日走っていました。それが習慣になっていたのです。あとは何が必要で、何が大切で、何がいないのか、ちゃんと自分で区別がついたのが良かったと思います。

東区では、区民の皆さんが身近で無理なくできる行動（スモールアクション）を積み重ねる「東区スモールアクションプロジェクト」を進めています。より多くの皆さんにこのスモールアクションを長く続けていただくことが、将来の安心・安全で快適なまちづくりに貢献していくと考えています。ぜひ、球界のレジェンドの山本さんから長く続けるコツなど、アドバイスをお願いします。

そうですね、三日坊主という言葉がありますが、目標設定が高すぎると起こります。ダイエットもそうですが、結果から逆算するとおそらく失敗します。それよりも、今できること、小さなことを習慣化していく。安心・安全なまちづくりも、登下校の子どもたちの声が聞こえたら、ちょっと庭先に出るなど、そういう小さなことを多くの方が継続していけば、おそらく絶大な力を生むと思います。私はこのプロジェクトは素晴らしいものだと思いますので、簡単にできることからぜひ参加してください。そして「継続する心」を大切にしてください。